

第 8 回図書館セミナーを開催しました

医学図書館では平成 25 年 7 月 11 日（金）17:00-18:30、211 講義室で中根裕信先生（医学科形態医学分野）を講師に第 8 回図書館セミナー「人体模型 見て触って人体を感じてみよう」を開催しました。

今回は、最近よく耳にする「風疹」の話でした。なぜ、「風疹」はこんなにもニュースに上るのでしょうか？ それは妊婦さんが、妊娠の初期に風疹に初めて感染すると胎児に異常（白内障、難聴、心奇形等）が生じ、先天性風疹症候群（congenital rubella syndrome: CRS）になる可能性があり社会的に問題になるとのことでした。妊娠初期は胎児の主な臓器が形成される大切な時期（器官形成期）です。この時期に風疹ウイルスに初めて感染すると細胞の分裂等に影響がでて、臓器の形成がうまくできないために CRS になるとのことでした。人の発生過程の動画と図表を用いて CRS についてわかりやすく説明されました。次に CRS の発見の歴史について話されました。1941 年に Gregg 医師（オーストラリア）は、両目が白内障の新生児を通常より多く診察し、これまでにないことだと感じました。その原因を調べるうちに、その新生児の母親が妊娠初期に風疹に感染していたことを知り、「胎児の異常」と「風疹」の関係を指摘しました（風疹ウイルス発見の約 20 年前）[Teratology, 58:13-23(1998)]。CRS の発見は、Gregg 先生が病気の症状にとどまらず、患者さんの生活や背景にまで目を向けたからこそなされたと言えるでしょう。

その意味で、医療人は、医学や疾患への深い理解が必要であるとともに、状況に応じて患者さんの周囲の家族や地域といった患者さんの背景をも考慮に入れ総合的に分析する力を持つことが大切であると話されました。

セミナー終了後は身近な医療に関する疑問から研究調査の方法についてまで幅広い質問がありました。参加者からは「将来感染症について聞く時、風疹を一つのベースとして…学びやすくなると思う」「知っていることが増えると関心が増す」「モチベーションが上がりました」と大変好評でした。

平成 25 年度第 8 回出張図書館を開催しました

セミナーの後も、今年度第 8 回目となる出張図書館を開催いたしました。上記セミナー中に先生ご紹介いただいた図書を含めトルソー、臓器模型等に自由に触れて、「立体的なイメージが分かった」、「大まかに学んだり、復習にもありがたい」、「（人体の構造が）思ったよりややこしい…図は簡略なことが多い（から分かりやすくて良い）」と人体を深く理解することに役だっていました。

医学図書館では、多くの学生の皆さんに医学の基礎となる人体についてより理解を深めていただくために、今後もこのような企画を計画していきます。トルソー等をご利用の際はカウンターにお申し込み下さい。

《今回セミナーで紹介された図書》

書名等	請求記号	図書ID
医学を変えた発見の物語 / Julius H.Comroe,Jr.著 中外医学社 1998	M02:Com	0200017135
人間はどこまで耐えられるのか / F・アッシュクロフト著 河出書房新社 2008	M13:Ash	0210062642他
自分の体で実験したい : 命がけの科学者列伝 / レスリー・デンディ他 著 紀伊國屋書店 2007	402.8:Den	0210062675他

※請求記号、図書IDは医学図書館所蔵の物になります。

